

資料 1

## 令和2年度 第2回総合教育会議

# 教育分野におけるデジタル化について

令和3年2月16日



# 目次

- ① 都城市におけるデジタル化について  
総合政策課
- ② 芸術分野におけるデジタル化について  
美術館
- ③ GIGAスクール構想の実現に向けて  
学校教育課



# ① 都城市におけるデジタル化について

総合政策課





## ■ 都城デジタル化推進宣言 (R1.8.29)

市民サービスにおけるデジタル化推進

自治体経営におけるデジタル化推進

物産振興におけるデジタル化推進

行政の全分野  
においてデジ  
タル化を推進

コロナウイルス感染拡大を背景に、自治体におけるデジタル化は加速していく。  
⇒ 骨太の方針2020「デジタル化への集中投資・実装とその環境整備」

- 国・県の動向を把握し、財源を確保
- 企業の新しいチャレンジに即応し、実証事業として先行取組を検討
- 他自治体で結果を出している取組の横展開

国の動きに先駆けて、全国でもトップクラスのスピードでデジタル化を推進することを宣言

# ■ 主要なデジタル化関連施策

## おくやみフルサポート事業

マイナンバーカードを活用し手続きの簡素化を図るシステムを構築するとともに、資格確認を自動化するためのRPAの活用



## イベント情報集約サイト

AIを活用し、インターネットに掲載されている市内イベントを集約  
公民館等が直接登録する機能も実装



## デジタル面接（電子録画面接）

録画形式で二次面接を実施  
筆記試験、アフターフォロー、説明会、インターンシップ等もオンライン化



## 押印廃止方針の決定



# ■デジタル時代のインフラ：マイナンバーカード

マイナンバーカード交付率 (R3.1.1)

# 50.4%

タブレットを活用した申請補助 (都城方式)



**特別定額給付金**事務のマイナンバーカードによるオンライン申請は5月1日申請開始に対して、同日給付開始  
紙申請書送付完了時期まで、申請から1週間以内の給付を実現

**「アイデアとノウハウ問われる」**  
コロナ後の地方は 一極集中からの脱却

「新型コロナウイルスを巡る対応はスピードを重視している。国民一律10万円の特別定額給付金の支給率は6月上旬に9割を超えたが、当初は早期支給にあきらめムード。申請書類を市民に発送する封筒が発注業者から届くのが5月末それからは遅すぎた。ある職員が提案が状況を好転させた。ふるさと納税のお札を送るために常備している8万通の封筒にシールを貼って代用し、自動で封入する機械を使うことで1カ月以上の期間短縮を実現できた」

「給付金のオンライン申請が好調だったのも、マイナンバーカード交付率日本一の素地があったからこそ。コロナへの自治体対応は、アイデアとノウハウ、スピードが問われている」

「コロナ後の地方をどう展望するか。」「ウイルスを巡り都市部の密集リスクが顕在化し、脆弱さが露呈する」

「東京一極集中からの脱却には、自治体も変革を迫られている。」「自治体が横並びだった地方創生は、地域間競争に変わった。重要なのは国の政策を待つのではなく、積極的に政策を打ち出すこと。独自の施策にこだわらざるを得ない。独自の政策に合わせたオーダーメイドが難しく、画一的なサービスが難しく、画一的なサービスを利用して独自色を創出する」

「知事が表明した5月16日の政談会の出席を辞退した。」「知事は、何も知らされていなかった。東京など大都市の緊急事態宣言は解除されておらず、時期尚早だった。感じたのは、企画段階で県と市町村が連携、意見疎通を図る大切さ。断った反響も市に続々と寄せられ、驚かされた。市民は、首長の姿勢を注視している」

「都城市役所で、聞き手は井口健一(写真は松元信一郎)★「フレミヤ」にも掲載

編集委員インタビュー  
随時掲載

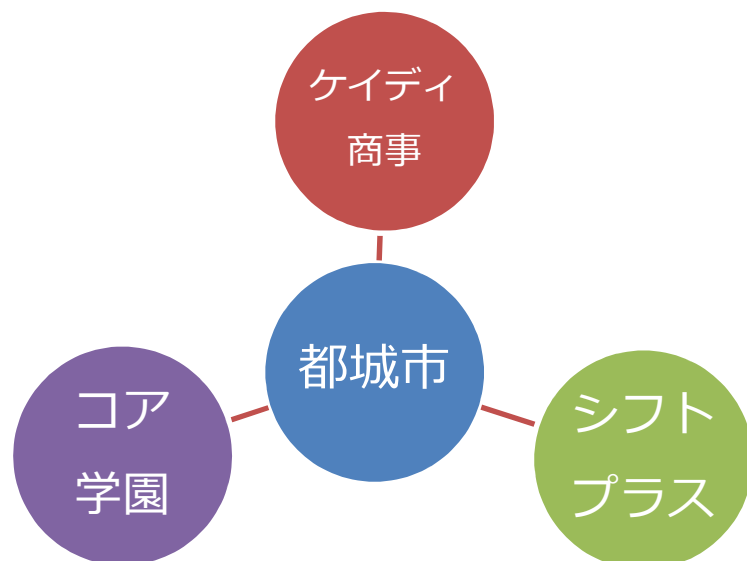
# ■ 誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化

総務省モデル事業：デジタル活用支援員推進事業実証事業

令和2年度に全国12地区で実証

高齢者等のデジタル弱者と呼ばれる市民に、デジタル活用の推進支援を実施

都城デジタル化推進協議会



- スマートフォン利用支援
- デジタル家電、デジタルグッズの紹介
- マイナンバー制度の説明

etc



本事業により、より豊かな生活の実現や生涯学習の推進等を期待

## ②芸術分野におけるデジタル化について

都城市教育委員会 美術館



# ■ 芸術文化におけるデジタル化の一例

## WEB上で市美術展を開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年度の**都城市美術展**の開催中止

- ・ 作品搬入時の3密を避けるのが難しい ⇒ **市民の安全を最優先!**
- ・ 出品者の約20%が県外

① 昭和28年から続く伝統ある公募展

② 平成25年から地域を問わない形で公募を実施

⇒ H31年度の出品者261人、出品数312点

・ 都北地区187人、県内25人、県外49人

③ 出品者は1年、遅くとも数か月前から創作

④ 毎年、期間中に約1,500人の観覧者（1日平均105人）



・ 出品者に創作活動を継続していただくとともに、市民に美術鑑賞の機会を提供する

## 市美術WEB展⇒ 応募・公開フォームの作成

ゼロからのシステム構築では経費と時間が掛かりすぎる



既存システムの活用

(応募)

(公開)

公募ガイド社「あつま〜る」+ 美術館の「収蔵作品検索システム」

- WEB…応募フォームに必要事項を入力し、作品の画像データ（10Mまで）をアップロード
- 郵送…出品申込書に必要事項を記載し、作品の写真プリント（L版～A3）を郵送

**応募総数 97人163点 (内初出品45人)**

応募方法	人数	点数	平面	立体	映像
WEB応募	82	137	120	8	9
郵送応募	15	26	23	3	

前年度比

応募人数 44.9%

出品点数 52.2%

⇒60歳以上93.3%



美術館HPの特設サイトで公開 **閲覧者のべ数 4,664人**

## ■ WEB展の応募状況の分析①

年齢別	WEB展(R2)		(R1)	
80代以上	3	3.1%	32	12.3%
70代	23	23.7%	83	31.8%
60代	14	14.4%	51	19.8%
50代	11	11.3%	24	9.2%
40代	16	16.5%	10	3.8%
30代	9	9.3%	9	3.4%
20代	14	14.4%	9	3.4%
10代	6	6.2%	43	16.5%
(内高校生)	4	2.5%	41	13.1%
不明	1	1.0%		

・例年約60%を占める60歳以上の年齢層の多くがWEB応募を敬遠か！

⇒実際に「難しいことはできん」という声があった。

※高齢者等のデジタル弱者と呼ばれる市民に、デジタル活用の推進支援が必要！

## ■ WEB展の応募状況の分析②

居住者別	WEB展(R2)		
	人数	点数	
都城市	47	79	48.5%
三股町	6	10	6.1%
曾於市	7	8	4.9%
志布志市	1	2	1.2%
大崎町	0	0	0.0%
その他(県内)	22	38	23.3%
その他(県外)	4	6	3.7%
その他(海外)	10	20	12.3%

(R1)		
人数	点数	
168	195	62.5%
19	21	6.7%
30	36	11.5%
4	5	1.6%
2	2	0.6%
25	33	10.6%
13	20	6.4%
—	—	—

- ・ 海外から多数の応募があった！
- ・ 宮崎市内の福祉施設から多数の応募があった！

※個人差や国籍の違いなどへの配慮が必要（多言語要項の作成など）！

### 【WEB展の意義と問題点】

- ・ 市美展をつなぐということの意味があり、出しやすさから裾野が広がった。
- ・ 世界中どこからでも応募ができ、また出品作品を見ることができた。
- ・ 質感がわからないので、大賞や市長賞などの賞は選べない。



## WEB展の今後の展望

I 出しやすさという利点を生かす！！

・ 入賞審査が無いWEB出品部門の創設。

①市美術展は敷居が高いと思っている人の出品を促すことができる



将来の市美術展出品者へ繋がる

②出品者が全国・世界に広がり、都城のPRに貢献できる

II どこからでも見ることもできるという利点を生かす！！

・ 出品作品を閲覧することができる「WEBギャラリー」の開設

①時間的・距離的な制約等により、来れない人に鑑賞の機会を提供できる

②学校の授業で活用でき、児童生徒に芸術文化に触れる機会を提供できる



## ③ GIGAスクール構想の実現に向けて

都城市教育委員会 学校教育課



## ■ GIGAスクール構想の実現に向けて

- 誰一人取り残すことなく、児童生徒の情報活用能力の育成と、学力の向上を図る。
- 本市が掲げる デジタル化を推進できる人材育成を図る。

### 1人1台端末整備について (Chromebook Google OS)

小学校1年生～3年生(4, 147台)

キーボード着脱式タブレットPC

※先行導入したWindowsタブレットPC480台は再利用



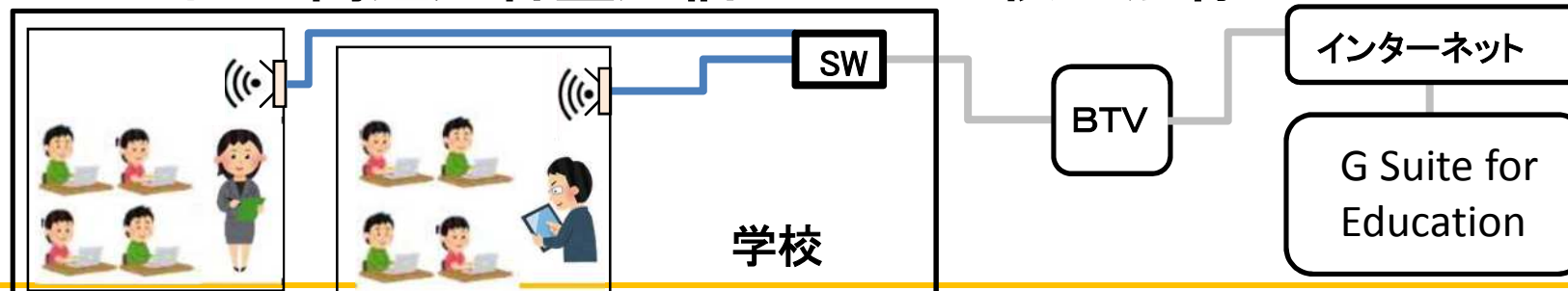
小学校4年生以上(9, 336台)

ノート型PC



### 校内無線LAN整備について

全小中学校に高速大容量通信が可能となる校内無線LANを整備



# ■ GIGAスクール構想の実現に向けて

こんな学習を実現します！

これまでの指導方法

話合い、発問、授業構成、



1人1台端末のよさ

学習方法、内容、進度の個別最適化



例えば・・・

外国語活動

児童がパソコンのマイクに向かって英文を読む。

児童の発音を音声入力機能により記録、  
発音が正しければ自動入力される。

児童は、入力された英文を読み、  
自分の発音が正しかったかを確認できる！

教師は、評価と指導に活用！



マイクに向かって英文を読む児童



苦手な児童に個別指導する教師

# ■ GIGAスクール構想の実現に向けて 教職員研修も実施しています！

11月19日(木) 管理職対象の研修



文科省ICTアドバイザーによる講義



Chromebookを使った操作体験研修

11月20日(金) 情報教育担当者対象の研修



研究所員による講義、演習



苦手な教職員への個別支援



**学校活動にICT活用**  
 部 教諭対象にセミナー  
 部 3講座に計100人が参加。学校活動での情報通信技術（ICT）活用などについて理解を深めた。20日は各校の情報教育担当者が51人が受講。グループでの議論が活発で、同社は使い方を指導した。同じく同研修所ICT活用講座に所属していた。市学校教諭の北村幹人氏で報告。4人は職員用の標準講座で、今後のICT活用講座に個人、教員は1つたり対応できるような準備が必要と断った。例年と同様に10講座ほどだが、400人が参加するが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で内容を厳選し規模を縮小した。（湯田光）



## ■ GIGAスクール構想の実現に向けて

### コロナ禍における教育のデジタル化推進について

※1月の臨時休業における取組事例

#### ○ アンケート機能を利用したweb上での「健康観察」

保護者がデータにアクセスして、児童生徒の健康  
状況等を入力！

児童生徒の安否確認とともに、学校全体の状況を  
瞬時に把握できる！

健康観察フォーム・中霧島小6年

今朝のお子様の健康状態確認のためのフォームです。入力いただいた内容は、本校職員以外に提供したり公開したりすることはありません。ご協力よろしくお願ひ致します。

\*必須

お子様の出席番号・氏名を選択してください。氏名は姓と名の頭文字だけになっています。\*

選択

今朝の体温について選択してください。平熱よりも高い場合は「発熱」を選択してください。\*

平熱（異常なし）

発熱している

#### ○ PCの持ち帰りによる、家庭学習での活用（実証実験）

PCを家に持ち帰り、オンライン授業を実施！（南小6年生で実施）

今後、効果的な利用方法や諸課題について研究を行う。

